令和5年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【与野本町小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策

知識・技能	校内研修を中心とした様々な取り組みの成果が見られるが、さいたま市学習状況調査の結果を見ると、それが学力につながっていない部分もある。基礎基本の定着はある程度の成果が見られるが、さらなる習熟に向けて、ICTを活用した個別最適な学びを推進していく必要がある。スクールダッシュボードによって児童一人ひとりの学習履歴を把握し、適切な指導ができるよう、授業改善を進めていく。
思考・判断・表現	昨年度、算数科における読解力向上の研究に取り組んだことで、既習を生かして課題解決に向けて取り組む力や自らの考えを書いたり発表したりする力が定着してきている。しかし、さらなる習熟に向けて、今年度から取り組んでいる国語の校内研修に完全に切り替えるのではなく、昨年度の研修の成果を生かしていく場面を増やし、表現の仕方や思考ツールをより汎用性の高いものに研究を進め、他の教科においても生かされるようにしていく。
主体的に学習に取り組む態度	本年度の校内研修である「国語科における読解力向上への取り組み」による成果と課題を分析し、改善に努めながら来年度はさらに推進していく。授業における「問題の読み取り」や「見通しのもたせ方」をさらに研究し、自ら課題を解決しようとする主体的に学習に取り組む態度を育んでいく。

① 目 標・策

	目 標		策
知識・技能	さいたま市学習状況調査の国語・算数の「知識・技能」において、令和4年度より自校の平均正答率を3pt向上させる。	⇒	昨年度の校内研修の成果である「算数科における読解力の向上への取り組み」を国語科においても生かしていく場面を増やし、表現の仕方や思考ツールをより汎用性の高いものにしながら研究を進めていく。教育タブレット端末をはじめとしたICT機器を効果的に活用した反復・習熟の時間の確保を図ったりして、読解力向上に必要な語彙など基礎的・基本的な知識・技能を習得させる。
思考・判断・表現	さいたま市学習状況調査の国語・算数の「思考・判断・表現」において、令和4年度より自校の平均正答率を4pt向上させる。	⇒	本年度の校内研修である「国語科における読解力向上への取り組み」の研究を通して、NIE教育を取り入れながら、考えが共有・比較できるように思考を可視化するなど、協働的な学びの場を設定する。また、業前のチャレンジタイムの時間において、読解力向上に向けた問題を作成し、思考・表現力を高める。
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を9割以上にする。	⇒	本年度の校内研修である「国語科における読解力向上への取り組み」を進めるにあたり、まずは児童の文章を読むことに向かう態度を育成し、言語能力・情報活用能力の向上を図っていく。また、授業における「問題の読み取り」や「見通しのもたせ方」を研究し、自ら課題を解決しようとする主体的に学習に取り組む態度を養う。

⑤ 目 標・策の達成状況

		評価（※）
知識・技能	昨年度の校内研修を生かしながら授業改善に取り組むことで、国語・算数における基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができた。また、ICT機器を活用しながら反復・習熟の時間の確保を図ることで、基礎的・基本的な知識・技能を習得させることができた。しかし、さいたま市学習状況調査では、目標の3pt以上向上できた学年もあったが、達成できなかった学年もあり、すべてが結びついているとはいえない部分がある。	B
思考・判断・表現	業前のチャレンジタイムの時間に、読解力向上に向けた問題に取り組ませることで、思考・表現力を高めることができた。本年度の校内研修を通して、NIE教育を取り入れながら、考えを共有・比較しながら、協働的な学びにつなげることができた。ICT機器を効果的に使い、児童の思考力・表現力を伸ばすことができた。しかし、さいたま市学習状況調査では、目標の3pt以上向上できた学年もあったが、達成できなかった学年もあり、さらなる改善策を講じていく必要がある。	B
主体的に学習に取り組む態度	本校の研究を通して、ICT機器を活用し、自らの考えを友だちと共有したり、比較したりすることで、自ら課題を解決しようとする主体的に学習に取り組む態度の育成を進めることができた。特に業前のチャレンジタイムの時間に行っている取り組み「コトバト」では、どの学年も意欲的に取り組んで語彙力をはぐくんでいた。さいたま市学習状況調査の結果は、5年生、6年生共に約9割が肯定的な回答となった。	A

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（概ね達成）　C 6割未満（あと一歩）

② 全国学力・学習状況調査結果・分析

知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較すると、国語－3pt、算数＋3ptであった。国語では、基礎的な漢字の習得・活用、言葉の意味や使い方等において苦手さが見られる。今年の校内研究の一環である「語彙の習得」の向上を目指す。
思考・判断・表現	「思考・判断・表現」においては、R4年度の自校の結果と比較すると、国語＋8．3、算数＋2．1であった。算数では、解答の根拠を言葉や数を用いて記述する問題で、正答率が低く、特に「図形」の領域に苦手さがある。図形を扱う際には、式の意味や解答の根拠を図に表し説明する活動を重視したい。
主体的に学習に取り組む態度	質問紙における「主体的に学習に取り組む態度」に係る項目では、肯定的な回答が多く、友達との活動を通して自分の考えをより深めることができている。しかし、家庭学習において、自ら計画的に学習を進めることや学習時間の確保において課題が見られる。家庭への呼びかけを行い、保護者と協力して学習習慣の定着を図りたい。

④ さいたま市学習状況調査結果・分析

小3	国語では、どの領域においても平均的な正答率だったが、「思考・判断・表現」の区分では、令和4年度の平均正答率と比較して＋6．9ptであった。学校課題研修で取り組んでいる国語の取り組みの成果が見られる。算数においては、全体的に正答率がやや低い傾向が見られた。特に「思考・判断・表現」の区分では、令和4年度の平均正答率と比較して－6．7ptであった。	小4	国語も算数も全体的に正答率が高い傾向が見られた。特に「思考・判断・表現」の区分では、令和4年度の平均正答率と比較して＋25．5ptであった。学校課題研修で取り組んでいる国語の取り組みの成果が大いに見られる。算数は「知識・技能」の区分で、令和4年度の平均正答率と比較して＋11．1ptとなり、昨年度の算数科の研修の成果が見られる。
小5	国語も算数も全体的に正答率がやや高い傾向が見られた。しかし、昨年度も同様に高い傾向だったため全体的に、令和4年度の平均正答率と比較してやや低くなった。算数も同様なため、「思考・判断・表現」の区分で、令和4年度の平均正答率と比較して＋2．5ptに留まった。	小6	国語も算数も全体的にやや正答率が高い傾向が見られた。特に「思考・判断・表現」の区分では、令和4年度の平均正答率と比較して＋4．8ptであった。学校課題研修で取り組んでいる国語の取り組みの成果が見られる。算数は「思考・判断・表現」の区分で、令和4年度の平均正答率と比較して－5．7ptとなり、十分に習熟できていない部分がある。

③ 中間期見直し（全国学力・学習状況調査結果分析後）

	目 標		策
知識・技能	変更なし	⇒	変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒	変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒	変更なし